

名医の郷 養父市が贈る

やぶ医者大賞

江戸時代の俳人の松尾芭蕉の弟子である森川許六が編纂した「風俗文選」という俳文集の中に「藪医者ふくしやくの解」という一節があり、『世の中で「藪医者」という表現は、本来名医を現す言葉であって、今言われている下手な医者のことではない。ある名医が但馬たじまの養父やぶという所にひっそりと隠れるように住んでいて……。』と書かれています。（詳しくは裏面を参照）

養父市では、「藪医者の語源が、養父の名医」であることにちなみ、名医の郷として「やぶ医者大賞」を実施いたします。

この賞は、へき地で頑張っている若手医師にスポットを当て顕彰することにより、若手医師を育てるとともに、へき地の医療に携わることの魅力を発信し、へき地における医師の確保と地域医療の発展に寄与することを目的とします。

■対象者 へき地の公的病院又は診療所（民間含む）に5年以上勤務する平成28年4月1日時点で、50歳未満（昭和41年4月2日以降生まれまで）の地域医療に頑張っている医師および歯科医師

■表彰者 2名

■賞と奨励金 賞状、記念品及び奨励金50万円

■応募方法 公的団体等による推薦

※ 所定の応募用紙に、推薦理由等必要事項を記入の上、資料を添えて事務局まで郵送すること。

※ 応募者登録制度とし、3回（3年）を期限としてその間は応募者として取り扱い、毎回、審査の対象とする。

■応募期限 平成28年8月31日（当日消印有効）

■審査会 平成28年9月24日（土）午後1時30分より

■審査員 井上正司（養父市医師会会長）

（50音順） 岡山雅信（神戸大学大学院地域医療教育学部門特命教授）

小谷穰治（兵庫医科大学救急・災害医学講座主任教授）

武田以知郎（奈良県明日香村国民健康保険診療所管理者）

谷風三郎（公立八鹿病院院長）

永井良三（自治医科大学学長）

中尾一和（京大大学院医学研究科メディカルイノベーションセンター教授）

中村伸一（福井県おおい町国民健康保険名田庄診療所所長）

西村正樹（滋賀医科大学教授）

広瀬栄（養父市長）



■表彰式 期日：平成28年11月26日（土）午後1時開会

会場：養父市立ビバホール（養父市広谷250）

■申し込み・ 養父市健康福祉部保険医療課 〒667-8651 兵庫県養父市八鹿町八鹿1675番地

問い合わせ先 電話:079-662-3165/FAX:079-662-2601/E-mail:kokuho@city.yabu.lg.jp

◇主催：兵庫県養父市

◇後援：日本医師会、全国国民健康保険診療施設協議会、全国自治体病院協議会、

関西健康・医療創生会議、認定NPO法人日本ホルモンステーション、兵庫県医師会、

兵庫県市町診療施設運営対策協議会、兵庫県、養父市医師会、公立八鹿病院

藪医者の語源は、養父の名医

江戸時代の俳人で松尾芭蕉の門弟である森川許六(もりかわきよりく)という人が編纂した「風俗文選(ふうぞくもんぜん)」という俳文集があり、この中に「藪医者ノ解」と題する一節があります。

藪医者ノ解 汶村

世に藪(やぶ)醫者と號するは。本(もと)名醫の稱にして。今いふ下手(へた)の上にはあらず。いづれの御ン時にか。何がしの良醫。但(たん)州養父(やぶ)といふ所に隠れて。治療をほどこし。死を起(をこ)し生に回(かへ)すものすくなからず。されば其風をしたひ。其業を習ふ輩。津々浦々にはびこり。やぶとだにいへば。病家も信をまし。薬力も飛がごとし。……

※ 出典:岩波文庫『風俗文選』(伊藤松宇校訂、昭和3年10月15日発行)

※ この一節で藪医者に言及したのは許六ではなくその門弟で、許六と同じく近江彦根藩士の「汶村」という人物です。

◆ この一節を意識すると次のようになります。

世の中で「藪医者」という表現は、本来名医を現す言葉であって、今言われている下手な医者のことではない。いつごろの時代であろうか。ある名医が但馬の養父という所にひっそりと隠れるように住んでいて、土地の人に治療を行っていた。死にそんな病人を治すほどの治療を行うことも少なくなかった。その評判は広く各地に伝わり、多くの医者の子が養父の名医の弟子となった。養父の名医の弟子と言え、病人もその家人も大いに信頼し、薬の力も効果が大きかった。



◆ なぜ名医の代名詞としての「養父医者」は、ヘタを意味する「藪医者」となってしまったのでしょうか。

「養父の名医の弟子と言え、病人もその家人も大いに信頼し、薬の力も効果が大きかった。」と「風俗文選」にもあるように、「養父医者」は名医のブランドでした。

しかし、このブランドを悪用する者が現れました。大した腕もないのに、「自分は養父医者の弟子だ」と口先だけの医者が続出し、「養父医者」の名声は地に落ち、いつしか「藪」の字があてられ、ヘタな医者を意味するようになったのではないのでしょうか。

「藪医者」の語源については、様々な説がありますが、文献に基づいた「藪医者とは、もともと名医を現す言葉であり、その語源は養父の名医である」という説が本当ではないのでしょうか。

■ 風俗文選(ふうぞくもんぜん)

江戸中期の俳文撰集。10巻9冊。5冊本もある。芭蕉の遺志を継ぐ最初の俳文集で、蕉門の許六(きよりく)編。1706年(宝永3)9月に京の井筒屋庄兵衛から《本朝文選》と題して刊行。巻頭に李由序・去来序・支考序・許六序・作者列伝・目録があり、本文の最後に汶村後序、巻末に許六門人孟遠らの跋がある。本文は蕉門俳人28名の作品約120編を収める。

※ 出典:世界大百科事典第2版

■ 森川許六(もりかわきよりく)

森川許六(もりかわ きよりく、明暦2年8月14日(1656年10月1日) - 正徳5年8月26日(1715年9月23日))は、江戸時代前期から中期にかけての俳人、近江蕉門。蕉門十哲の一人。名は百仲、字は羽官、幼名を兵助または金平と言う。五老井・無々居士・琢々庵・碌々庵・如石庵・巴東楼・横斜庵・風狂堂など多くの別号がある。近江国彦根藩の藩士。 ※ 出典:フリー百科事典「ウィキペディア (Wikipedia)」

■ 汶村(ぶんそん)

?-1712 江戸時代前期-中期の俳人。近江(おうみ)(滋賀県)彦根藩士。蕉門(しょうもん)の森川許六(きよりく)に俳諧(はいかい)、画をまなぶ。正徳(しょうとく)2年死去。姓は松井(居)。字(あざな)は師薑。別号に九華亭、野蓼斎。

※ 出典:デジタル版日本人名大辞典+Plusの解説